

いじめは「誰にでも」「どこでも」起こりえます。

「いじめ」とは、児童生徒に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している当該児童生徒と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の**対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの**をいいます。（「いじめ防止対策推進法」より）

⇒ 県内の学校では、いじめを「誰にでも」「どこでも」起こりうるものとしてとらえ、子どもたちの見守りに力を入れることでいじめを見逃さずしっかりと認知し、早期対応に努めることを基本方針としています。

ご家庭においても「あれ？もしかして？これはいじめではないかな」という思いが生じた場合、速やかに学校や相談機関等に連絡してください。

いじめの早期発見

小さな変化を見逃すことなく。

【表情は？】	
表情が暗くなり、何か考え事をしている。	
ため息をついたり、涙を流したりしている。	
落ち着きがなくなり、おどおどしたりしている。	
食欲がなく、元気がない。	
【友達？】	
友達と遊ばなくなり、家に閉じこもりがちになる。	
友達関係が変化している。	
知らない友達からの電話があり、不自然な外出が増える。	
【言動は？】	
携帯電話・スマートフォンの着信音をとても気にする。	
急に無口になったり、「死にたい」ともらしたりする。	
学習意欲をなくし、勉強が手につかない。	
朝になると体調不良を訴え、登校を渋る。	
「転校したい」と言い出す。	
家庭から品物やお金を無断に持ち出す。	
【服装・持ち物は？】	
帰宅した時、衣服の汚れや破れがある。	
傷跡を隠すため、裸になるのを嫌がる。	
お金の使い方が荒くなり、遣いみちを言わない。	
持ち物が頻繁になくなり、壊されたり、落書きされたりする。	
【いじめの加害者になっていませんか？】	
言葉遣いが荒くなり、言うことを聞かない。	
買ったおぼえのない物を持っている。	
与えたお金以上の物を持っている。	

いじめの未然防止

特に気を付けたい、ネットいじめ。

SNSなどで学校や名前を特定されてしまった人がいる。すごく怖い。

簡単にグループからはずしたり、ひどいことを言ったりしている。

親も先生もネットについて知ってほしい。じゃないと相談もできない。

R2年度「鹿児島県いじめ防止子どもサミット」児童生徒の言葉より

「知らなかった」では済まされない

誹謗中傷 **グループ外し**
無視 **情報の拡散**

確認し管理するのは保護者の責務です

【ネットいじめに関して、保護者としての責任を果たしていますか？】	
定期的に子どものスマートフォン等をチェックする。 (子どもと一緒に見る チェックすることを約束する パスワードを聞いておくなど)	
使っている時間やサイトなどの 家庭内のルール を決める。	
必ずフィルタリングを設定する。	

ルールが自分自身を守れることを伝えて。

- 相手（他人）を傷つける行為はしない。
- 知らない人とのやりとり（メッセージ、写真）はしない。
- 個人を特定されるような情報・写真（SNSのID等の連絡先、氏名、住所、学校名など）は絶対にUPしない。
- 困ったときは、保護者・学校等に相談する。

【アプリ等でペアレンタルコントロール（保護者が時間等を制限すること）も設定できます!!】

いじめの早期対応

受け入れ、共感し、寄り添う。

【子どもがいじめられていると感じたとき】

子どもが抱えている恐怖や不安、自らなかなか言い出せない悲しみに寄り添いながら、冷静にじっくりと子どもの言葉に耳を傾けてください。

- ・話しやすい雰囲気づくりを心がけましょう。
(タイミング、場所、まず話しやすい事柄は何か…)
- ・「いじめは絶対に許されない行為」であり、いじている人が悪く、あなたは悪くないと伝えましょう。
- ・何があっても「絶対に守る」「必ず助ける」「最後まで守り抜く」「決して自ら命を絶ってはならない」ことを伝えましょう。

学校や関係機関に迅速な相談を。

- ・担任に限らず、相談しやすい職員に相談してください。
- ・学校に相談しにくいときは、教育委員会や裏面の相談窓口にご相談ください。

【子どもがいじめていることを知ったとき】

- ・頭ごなしに叱るのではなく、なぜそんなことをしたのか、子どもの言い分をまず十分に聞き取りましょう。
- ・子どもの気持ちや背景を理解した上で、理由はどうあれ「いじめは絶対に許されない」ことを伝えましょう。
- ・解決するためにはどうするか、一緒に考えましょう。

SOSを出していい、助けを求めていいということを伝える。



家庭での温かいコミュニケーションの中で、困ったときは助けを求めることをスキルとして身に付けさせましょう。

悩みを誰かに相談するスキルが、いざというときに、事態が深刻化することを防ぎます。いろいろな解決法や相談先を提示することも大切です。

※ 子どもたちの出したSOSを大人がしっかりと受け止めることが大切です。